# 教員評価結果（平成２０年度）

１．教員評価対象者：106 名、うち参加教員 106 名（全員）

① 産業技術学部：40 名（教授 18、准教授・講師 19、助教 3）

② 保健科学部：38 名（教授 24、准教授 10、助教 4）

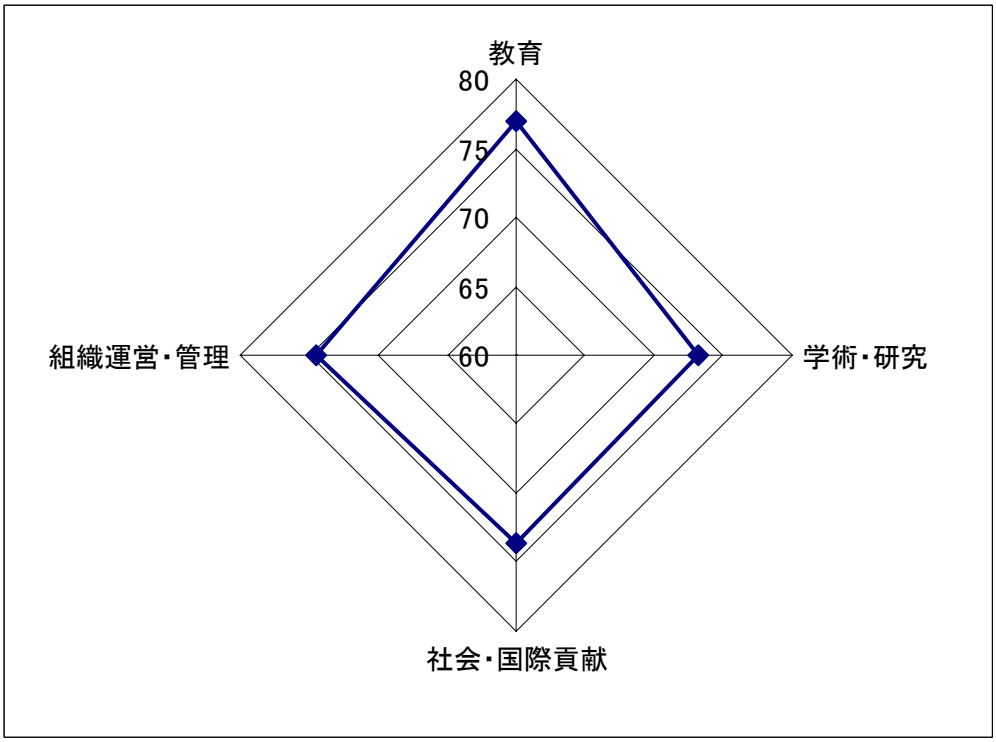
③ 支援センター：28 名（教授 16、准教授 9、助教 3）

産業技術学部の講師は２名であり、個人が特定されるおそれがあることから、准教授に含めた。WEB 評価システムの結果から平均、分散等を求めた。以下はそのうち平均値について示した。

２．評価結果

① 大学全体のカテゴリー別評価結果

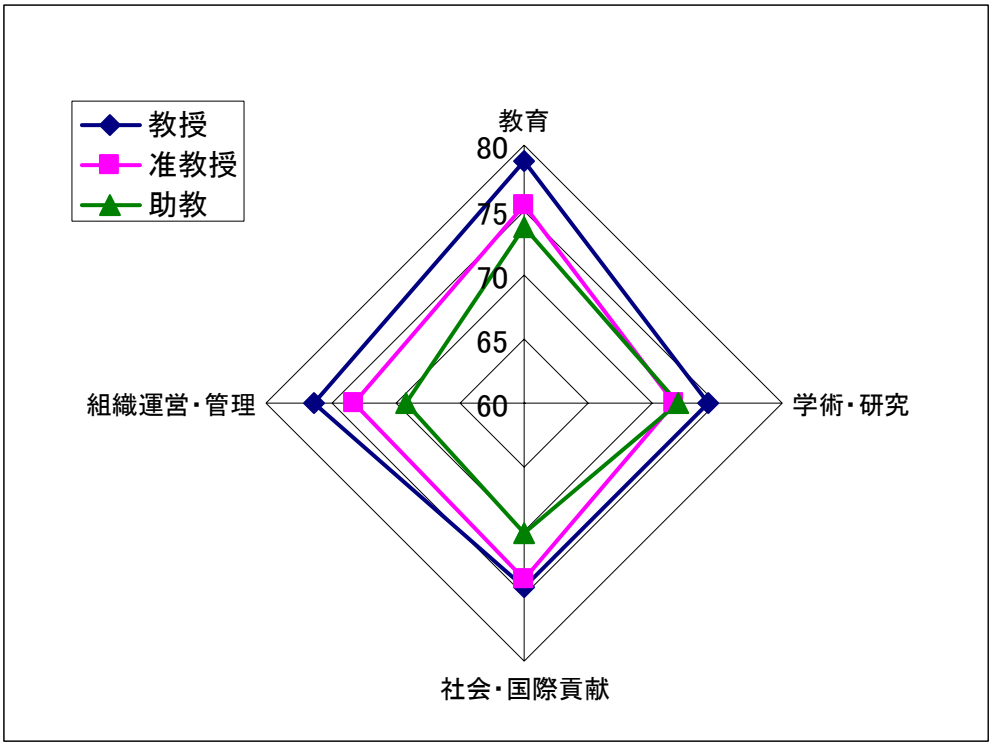
職位、部門すべての平均値をカテゴリー別に示した。




【大学全体のカテゴリー別評価結果の傾向】

教育＞組織運営・管理＞学術・研究＝社会・国際貢献の傾向にあるが比較的バランスのとれた形である。

② カテゴリー別職位別評価結果




【カテゴリー別職位別評価結果の傾向について】

職位毎のダイヤが交差することはなく、職位が高いほど高い評価点となっている。

（ア） 教育：教授＞准教授＞助教

（イ） 学術・研究：教授＞准教授＝助教

（ウ） 社会・国際貢献：教授＞准教授＞助教

（エ） 組織運営・管理：教授＞准教授＞助教

## ３．評価結果の分析と課題

① 初の教員評価であるが全員参加し順調に実施できた。四つのカテゴリー別、職位別の集計を行った。

② 「教育」が最も高い評価となり、障害者教育という本学の特徴を顕著に示している。

③ 全カテゴリーにおいて高い職位ほど高得点となった。平成 22 年度大学院設置に伴い教育のみならず研究の高度化が求められることから要検討事項である。

④ 自己採点評価方式のため、平均値こそ一定傾向にあるものの、個別には多様な評価がみられた。過剰に厳しい評価、甘い評価等の傾向である。評価方法自体を継続的に検討していく必要がある。

⑤ 今回開発、使用された WEB 評価システムは操作性、利便性のいずれも概ね好評であった。